

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜ペットビジネス科＞

科目名	商品研究Ⅱ	
担当教員の実務経験	服飾専門学校教員、オーダーメイド制作受注の経験がある	
対象学生	ペットビジネス科 3年生	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	オリジナルアイテムの制作と研究	
授業の到達目標	普段の生活や介護・看護の目線で商品を研究する ペットオーナーのニーズや嗜好を理解し、ペットの健康と幸福を向上させる商品 を研究し企画販売を行う。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、 A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。 課題報告問題（昨年度、去年度）をくまなくチェックすること。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点	課題の提出期限を守ること。	
授業計画（内容）		コマ数
商品研究・企画・制作		15
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜ペットビジネス科＞

科目名	グルーミング実習Ⅲ	
担当教員の実務経験	① ペットショップにてトリマーの実務経験がある ② 動物病院にてトリマーの実務経験がある	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 3年	
授業時間数・単位数	45 コマ ・ 3 単位	
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	実務で通用するトリミング技術を覚える。	
授業の到達目標	トリマーライセンスの資格取得を目指す。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習	担当犬のカルテを事前にチェックする。 実習終了後にはトリミング記録を提出すること。	
使用教科書・教材・参考書	グルーミングの基礎	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
様々な犬種のカットスタイルを理解する。		7
クリッパーワークを完全に理解する。		7
シザーワークを理解する。 直線的なカットができる。 左右対称なカットができる。 バランスを考えたカットができる。		10
小型犬のトリミングを1人で1頭、仕上げることができる。		10
全ての器具・器財を理解し、使い分けることで作業の効率を上げることができる。		3
実技試験に向けた対策（模擬テスト） トリミング犬種を1人で1頭、2時間以内でカットを仕上げるができる。		8
合 計		45
授業単位数		3

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜ペットビジネス科＞

科目名	ペットビジネス総合演習Ⅲ／卒業制作	
担当教員の実務経験	・ 企業内広報部において、マーケティングリサーチ・分析・企画・広告・宣伝活動ならびに広報広告物およびWEBページの制作の経験がある。 ・ 事務職において受付業務や銀行業務等の経験がある。 ・ 商品販売（ならびにアドバイザーとして）の経験がある。 ・ ペットショップにて実務経験がある。 ・ 動物看護師としての実務経験がある。	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース3年生	
授業時間数・単位数	30コマ	2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	卒業制作	
授業の到達目標	研究成果発表の場としてブースを企画し作り上げる。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習	他で開催されている同様イベントにも興味をもってみる。	
使用教科書・教材・参考書	前年度資料	
授業上の注意点	満足とリスク管理は妥協せずに追求すること。	
授業計画（内容）		コマ数
店舗企画		30
合計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜ペットビジネス科＞

科目名	ペットマッサージⅡ	
担当教員の実務経験	獣医師	
対象学生	ペットビジネス科 3年生	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	ホリスティック療法の基礎理論を理解し、手技を身につける。	
授業の到達目標	ホリスティック療法が注目されるようになった理由を根本的に理解する。 ペットマッサージが注目される理由と東洋医学理論を理解し、目的別のペットマ ッサージを行うことができる。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業 態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D （40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習	手技の習得に努めること。自主練習の際は禁止事項に注意してください。	
使用教科書・教材・参考書	ペットマッサージ アドバンスコース教本 ホリスティックケア・カウンセラー養成講座テキスト、DVD	
授業上の注意点	課題提出（動画）期限を守ること。	
授業計画（内容）		コマ数
陰陽論／五行説／未病とは／経絡とツボ／マッサージを始める前に／おしっこのトラブル／風邪（感冒）／ 腰痛／前肢のトラブル／後肢のトラブル／膝のトラブル／高齢ペットの睡眠トラブル／胃腸のトラブル／虚 弱体質（倦怠感・体力減退）		15
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	リハビリテーションⅡ	
担当教員の実務経験	動物看護師、理学療法士	
対象学生	ペットビジネス科動物看護コース3年	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	動物物理学療法の目的と意義を理解し、手技を習得する。	
授業の到達目標	<u>動物物理学療法</u> 1) 動物物理学療法の目的と意義について理解する 2) 代表的な理学療法の原理と手技について理解する	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	動物物理学リハビリ国際協会認定プログラム	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
院内でリハビリを行うにあたって/法律上の問題/整形疾患/神経疾患 その他の疾患/獣医師との連携/マネタイズ/スタッフ教育 疾患に対するリハビリテーション/モダリティ/義肢装具について 薬・サプリメントについて/具体的なプログラム/ケーススタディ		15
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

<ペットビジネス科>

科目名	愛玩動物看護師受験対策	
担当教員の実務経験	動物看護師	
対象学生	ペットビジネス科 3年生	
授業時間数・単位数	90コマ	6単位
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	愛玩動物看護師国家試験範囲の総復習を行う。	
授業の到達目標	苦手を克服し、合格を目指す。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
動物形態機能学まとめ 【1】細胞【2】組織【3】物質移動【4】骨 【5】関節【6】腱と靱帯【7】筋肉 【8】循環器【9】血液・造血器 【10】呼吸器【11】泌尿器【12】消化器 【13】内分泌系【14】外皮【15】神経系 【16】感覚器【17】生殖器 演習問題トレーニング		15
動物感染症学中心まとめ 【1】細菌【2】ウイルス【3】真菌 【4】寄生虫【5】疫学 演習問題トレーニング		15
動物看護関連法規中心まとめ 【1】愛玩動物看護師法【2】獣医師法 【3】獣医療法 【2】 【4】医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 【5】麻薬及び向精神薬取締法 【6】毒物及び劇物取締法 【7】感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 【8】狂犬病予防法【9】家畜伝染病予防法 【10】食品衛生関係法規 演習問題トレーニング		15
愛護・適正飼養学中心まとめ 【1】動物の愛護及び管理に関する法律 【2】愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律 【3】身体障害者補助犬法 【3】地球環境問題に関係する国際条約 演習問題トレーニング		15
薬理学まとめ		15

演習問題トレーニング	
模擬試験	15
合計	90
授業単位数	6

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	校外研修Ⅲ	
対象学生	ペットビジネス科 3年	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	校外施設および外部イベントへの参加や見学を行う	
授業の到達目標	業界全体への理解を深める	
成績評価方法と基準		
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点	状況により実施を判断します。 通常の実施が出来ない場合には代替学習への切り替えを行います。	
授業計画（内容）		コマ数
オリエンテーション		5
参加・見学		8
レポート提出		2
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	就職実務Ⅲ	
対象学生	ペットビジネス科 3年生	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	就職活動に必要な書類の準備、書き方の指導を行う。 インターンシップのアポイント、面接の指導を行う。	
授業の到達目標	希望就職先の内定	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習	積極的に企業研究を行なってください。	
使用教科書・教材・参考書	動物系専門学校生・トリミングスクール生のための コミュニケーション・マナー&キャリア・ガイダンス（インターズー）	
授業上の注意点	提出書類の期日に注意を払うこと。	
授業計画（内容）		コマ数
企業研究		5
書類準備		5
面接、書類指導		5
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

<ペットビジネス科>

科目名	動物愛護・適正飼養実習Ⅲ	
担当教員の実務経験	① レスキュー隊 ② 秋田県動物愛護推進協議会委員を務める ③ 動物病院にて犬舎管理の実務経験がある ④ ペットショップにて生体管理の実務経験がある	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	① 動物に対しての観察力を身につける。又、摂取カロリーや栄養バランス、安全な散歩のテクニックなどを学ぶ。健康管理面では投薬や保定などの技術の習得も目標とする。 ② 健康管理、飼い主へのアドバイスに必要な知識の習得を目指す。 ③ グループ作業の実施により、チームで働く上での心構えや協調性を養う。又、服装、及び時間厳守など社会人として最低限必要を守る意識を育てる。	
授業の到達目標	動物愛護・適正飼養実習Ⅰ・Ⅱで身につけた知識や技術をさらに向上できるよう、後輩に指導しながら飼養管理方法を考える。正しい知識や技術を伝授し、より良い飼育環境作りに務める。動物の命に責任を持つ。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習	命は24時間365日。休日も当番があります（月1～2回）。	
使用教科書・教材・参考書	動物看護実習テキスト	
授業上の注意点	少しでも異常が認められる場合は速やかに報告してください。	
授業計画（内容）		コマ数
情報の共有から質の高い飼育を目指す		1
個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す		1
観察力アップから質の高い飼育を目指す		1
自己評価から質の高い飼育を目指す		1
危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す		2
入院管理を想定し質の高い飼育を目指す		2
動物に携わるものとしての倫理観を備えた質の高い飼育を目指す		2
動物飼育実習の総括		1
ペット防災・災害対策（避難所開設・支援訓練）について理解する		4
合 計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

<ペットビジネス科>

科目名	動物愛護活動Ⅲ	
担当教員の実務経験	秋田県動物愛護推進協議会委員	
対象学生	ペットビジネス科 3年生	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	動物愛護活動に取り組む。 秋田県動物愛護推進計画を理解する。	
授業の到達目標	動物愛護活動に貢献する。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験・レポート）、出席率、提出物ならびに 日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点 以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	資料配布	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
動物愛護に関わるボランティアを計画し実行する		14
レポート		1
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物外科看護学Ⅱ	
担当教員の実務経験	獣医師、動物看護師	
対象学生	ペットビジネス科動物看護コース3年	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	
授業の到達目標	<u>術前準備</u> 1) 術前手続（飼い主への説明、承諾書など）や術前検査について理解する 2) 無菌的処置の重要性について理解する 3) 手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌法について理解する 4) 手術器具の準備と滅菌法について理解する 5) 手術室の機器類（无影灯、電気メス本体など）、準備について理解する 6) 器械台の準備について理解する 7) 動物の適切なポジショニングについて理解する 8) 術野の消毒について理解する 9) 手洗い、手術着・手袋の着用法について理解する <u>麻酔</u> 1) 麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割について理解する 2) 麻酔リスクの評価（ASA分類など）について理解する 3) 麻酔前投与（鎮静など）について理解する 4) 注射麻酔（局所麻酔を含む。）の手技について理解する 5) 吸入麻酔の手技について理解する 6) 導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する 7) 麻酔看視項目（心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼吸終末二酸化炭素濃度など）の監視方法、意義について理解する 8) 麻酔記録の作成法について理解する	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
手術チームでの愛玩動物看護師の役割と準備 1. 手術チームにおける動物看護師の役割 2. 手術室に入るとき 3. 手指の消毒法 4. 手の拭き方 5. ガウンとグローブの装着法		3
術前準備 1. 術前検査と術前手続き 2. 手術準備室と手術室の準備 3. 動物の術前準備		6

4. 麻酔の準備 5. 手術時のポジショニング 6. 消毒の準備 7. 術野の消毒法 8. ドレープの装着	
麻酔・鎮静処置 1. 麻酔あるいは鎮静処置時における動物看護師の役割 2. 麻酔あるいは鎮静処置の適応とリスク 3. 麻酔あるいは鎮静処置時に特有の問診 4. 麻酔あるいは鎮静処置前に実施される検査 5. 注射麻酔・鎮静に関わる手技（局所麻酔を含む） 6. 吸入麻酔に関わる手技 7. 導入時・覚醒時のリスクと対処 8. 麻酔看視項目 9. 麻酔記録の作成法 10. 麻酔あるいは鎮静処置に伴う疼痛管理	6
合計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物外科看護学Ⅲ	
担当教員の実務経験	獣医師、動物看護師	
対象学生	ペットビジネス科動物看護コース3年	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	
授業の到達目標	<u>外傷、創傷管理</u> 1) 創傷の種類と治癒過程と管理方法について理解する 2) ドレーンの装着と管理法について理解する 3) 止血法について理解する 4) 骨折・脱臼の管理について理解する <u>術中補助</u> 1) 代表的な手術器具（メス、鉗子など）の名称と使用法について理解する 2) 代表的な縫合材（縫合針、縫合糸）の分類と使用法について理解する 3) 代表的な歯科器具の名称と使用法について理解する 4) 直接補助（手袋着用下での補助）の内容について理解する 5) 間接補助（手術回りの補助）の内容について理解する <u>術後管理</u> 1) 麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて理解する 2) 疼痛管理の意義と方法について理解する 3) 術創管理と包帯法について理解する 4) 退院時の注意点と飼い主への説明事項について理解する 5) 褥創の予防及び対処法（体位変換など）について理解する	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
術中補助・術後管理 1. 術中動物看護の役割と必要な動物看護援助 2. 術直後動物看護の役割と必要な動物看護援助 3. 術後動物看護の役割と必要な動物看護援助 4. 縫合材と手術器具 5. 直接補助と間接補助を行う動物看護師 6. 直接補助の業務 7. 間接補助の業務		4
縫合材料と縫合法 1. 縫合糸の分類 2. 縫合糸の特徴 3. 縫合糸のサイズ 4. 一般的な縫合糸の種類と特徴 5. 縫合糸の包装		3

6. 縫合系の代替品 7. 縫合系の選択基準 8. 縫合針 9. 一般的な縫合法	
外科器具 1. 一般的な手術器具と使用法 2. 一般的な手術器具セット 3. 整形外科器具とその使用法 4. 歯科器具の名称と使用法 5. 手術器具の手入れ方法とその維持管理 6. 滅菌準備 7. 手術器具の滅菌 8. 代表的な医療機器	4
創傷管理と包帯法 1. 創傷の分類 2. 手術後の創傷管理 3. ドレッシング法実施時の創傷管理 4. 包帯法（バンデージ） 5. 褥瘡の予防	4
合計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物外科看護学実習Ⅱ	
担当教員の実務経験	動物看護師	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 3年	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	
授業の到達目標	<u>術中補助</u> 1) 麻酔器の各部名称や使用法を理解し、指示に従って操作できる 2) モニター機器（心電図、血圧計など）を接続でき、術中監視を行うことができる 3) 麻酔記録を作成することができる 4) 直接補助（器械の受渡しなど）ができる 5) 間接補助（无影灯、保温マットの操作など）ができる 6) 歯科器具の取扱いを理解し、歯科処置（歯石除去など）の補助ができる <u>術後管理</u> 1) 術後の創傷管理（ネット、カラー装着などを含む。）ができる 2) 動物に包帯（粘着性、自着性など）を装着できる 3) 抜糸の補助ができる <u>救急救命</u> 1) 必要な機材、薬剤を迅速に準備できる 2) 気管挿管を補助できる 3) 心肺蘇生（人工呼吸、心マッサージ）の手順を習得している	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	動物看護実習テキスト	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
術中・術後管理、救急救命		15
合計		15
授業単位数	1	

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物外科看護学実習Ⅲ	
担当教員の実務経験	動物看護師	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 3年	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	
授業の到達目標	<u>術中補助</u> 1) 麻酔器の各部名称や使用法を理解し、指示に従って操作できる 2) モニター機器（心電図、血圧計など）を接続でき、術中監視を行うことができる 3) 麻酔記録を作成することができる 4) 直接補助（器械の受渡しなど）ができる 5) 間接補助（无影灯、保温マットの操作など）ができる 6) 歯科器具の取扱いを理解し、歯科処置（歯石除去など）の補助ができる <u>術後管理</u> 1) 術後の創傷管理（ネット、カラー装着などを含む。）ができる 2) 動物に包帯（粘着性、自着性など）を装着できる 3) 抜糸の補助ができる <u>救急救命</u> 1) 必要な機材、薬剤を迅速に準備できる 2) 気管挿管を補助できる 3) 心肺蘇生（人工呼吸、心マッサージ）の手順を習得している	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	動物看護実習テキスト	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
術中・術後管理、救急救命		15
合計		15
授業単位数	1	

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物看護総合実習Ⅱ	
担当教員の実務経験	動物看護師	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 3年	
授業時間数・単位数	60コマ	4単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。	
授業の到達目標	動物看護業務の体験 1) 診察室における獣医療補助行為を体験する 2) 各種検査や処置、外科手術の補助を体験する 3) 入院動物の看護を体験する 4) 飼い主との適切なコミュニケーションを体験する 動物看護業務の実践 1) 実際の動物診療施設で、診察室における診療の補助を実践する 2) スタッフと連携協働し、チーム獣医療を実践する 3) 動物看護計画を立案し、実践する 4) 飼い主に対し適正飼養及び療養生活の指導を実践する	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（評価表）、出席率、提出物ならびに実習態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	動物看護実習テキスト	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
動物病院実習		60
合計		60
授業単位数		4

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜ペットビジネス科＞

科目名	動物美容学	
担当教員の実務経験	ペットショップにてトリマーの実務経験がある。	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 3年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	各主要犬種のカットスタイルの方法を学ぶ。	
授業の到達目標	トリミングの知識を身につける。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	グルーミングの基礎 プリント配付	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
＜シェットランド・シープドッグ＞ スタンダード・スタイル		1
＜シー・ズー＞ ショート・カット		2
＜ヨークシャー・テリア＞ ショート・カット		2
＜ポメラニアン＞ スタンダード・スタイル		1
＜ポメラニアン＞ ショート・カット		1
＜マルチーズ＞ ショート・カット		2
＜プードル＞ ケネル&ラムクリップ		2
＜プードル＞ テディベア		2
＜ミニチュア・シュナウザー＞ ペット・スタイル		2
合 計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物臨床看護学各論Ⅱ
担当教員の実務経験	動物看護師
対象学生	ペットビジネス科動物看護コース3年
授業時間数・単位数	30コマ ・ 2単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []
授業の概要	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。
授業の到達目標	代表的な疾患 1) 循環器疾患 僧帽弁逆流症、心筋症、血栓塞栓症、心膜腹膜横隔膜ヘルニア、心房中隔欠損、心室中隔欠損、卵円孔開存、右大動脈弓遺残症、動脈管開存症、犬糸状虫症 2) 呼吸器疾患 猫上部気道感染症、鼻炎、軟口蓋過長、気管虚脱、短頭種気道症候群、気管支拡張症、気管支炎、肺炎、肺水腫、猫喘息、膿胸、ジステンパー、ケンネルコフ 3) 消化器・栄養代謝性疾患 歯石症、不正咬合、歯肉炎、歯周炎、口蓋裂、口内炎、食道炎、食道狭窄、巨大食道症、幽門狭窄、胃拡張胃捻転症候群（GDV）、胃炎、蛋白喪失性腸症（PLE）、炎症性腸疾患（IBD）、食事反応性下痢（FRD）、抗菌薬反応性下痢（ARD）、腸リンパ管拡張症、消化管内異物、腸閉塞、腸捻転、腸重積、巨大結腸症、直腸脱、会陰ヘルニア、パルボウイルス感染症、肝炎、肝硬変、肝リピドーシス、門脈体循環シャント、胆嚢粘液嚢腫、膵炎、膵外分泌不全症（EPI） 4) 泌尿器疾患 急性腎障害（AKI）、慢性腎臓病（CKD）、腎盂腎炎、蛋白喪失性腎症（PLN）、尿路感染症、尿石症、膀胱炎、猫下部尿路疾患（FLUTD）、尿道閉塞症、レプトスピラ症 5) 内分泌疾患 甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症、糖尿病、副腎皮質機能亢進症（クッシング症候群）、副腎皮質機能低下症（アジソン病）、尿崩症 6) 生殖器疾患 潜在精巣、前立腺炎、前立腺肥大、子宮蓄膿症、偽妊娠、難産、陰脱、乳腺炎、犬ブルセラ症、乳腺腫瘍 7) 整形外科疾患 骨折、脱臼、膝蓋骨脱臼、関節炎、変形性関節症、前十字靭帯断裂、股異形成、レッグペルテス病、骨肉腫 8) 皮膚疾患 膿皮症、脂漏症、アトピー性皮膚炎、ノミアアレルギー性皮膚炎、好酸球性肉芽腫、食物アレルギー、天疱瘡、外耳炎、疥癬、耳ヒゼンダニ症、毛包虫症、皮膚糸状菌症、マラセチア皮膚炎、メラノーマ 9) 神経疾患 脳炎、水頭症、てんかん、ウォブラー症候群、椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、馬尾症候群 10) 眼疾患 結膜炎、角膜炎、乾性角結膜炎、角膜潰瘍、ぶどう膜炎、緑内障、白内障、核硬化症、流涙症、第三眼瞼腺脱出（チェリーアイ）、異所性睫毛 11) 造血器・免疫介在性疾患 免疫介在性溶血性貧血（IMHA）、ネギ中毒、ヘモプラズマ症、バベシア症、腎性

	貧血、血友病、猫伝染性腹膜炎（FIP）、猫白血病ウイルス（FeLV）感染症、猫免疫不全ウイルス（FIV）感染症、リンパ腫、白血病、肥満細胞腫 12) 緊急疾患 交通事故、感電、熱傷、熱中症、中毒、誤飲、ショック、アナフィラキシー	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
呼吸器疾患		3
循環器疾患		2
消化器疾患		3
内分泌疾患		2
血液疾患・免疫介在性疾患		3
皮膚疾患		2
感覚器疾患		2
神経・整形外科疾患		2
排泄機能障害を伴う疾患		3
生殖器疾患		2
救急疾患		6
合計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	動物臨床看護学各論Ⅲ	
担当教員の実務経験	動物看護師	
対象学生	ペットビジネス科動物看護コース3年	
授業時間数・単位数	15コマ	1単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。	
授業の到達目標	<u>担がん動物の看護</u> 1) がんの診断のための検査と治療の手順について理解する 2) 腫瘍随伴症候群について理解する 3) がんの治療を受けている動物の看護援助について理解する 4) 担がん動物の治療と化学療法の副作用について理解する	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
担がん動物の看護		15
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	比較動物学Ⅱ	
担当教員の実務経験	獣医師 認定動物看護師	
対象学生	ペットビジネス科 動物看護コース 3年生	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 []	
授業の概要	飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。	
授業の到達目標	<u>実験動物</u> 1) 動物実験の目的、意義について理解する 2) 代表的な実験動物の飼養管理、繁殖法について理解する 3) 遺伝学的制御、微生物学的制御、環境制御について理解する 4) 疾患モデル動物について理解する <u>野生動物</u> 1) 野生動物の分類と生物多様性について理解する 2) 鳥獣害の現状と保全の意義について理解する 3) 絶滅危惧種の定義と含まれる動物、原因、保全方法について理解する 4) 外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策について理解する <u>展示動物</u> 1) 展示動物の意義と動物園等の役割について理解する 2) 動物園等における個体・群管理、行動管理について理解する 3) 動物園等の施設管理について理解する	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、科目に対する理解（試験）、出席率、提出物ならびに日常の授業態度等を総合的に判断し、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻、愛玩動物飼養管理士	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
実験動物 2章1 実験動物学総論 1. 動物実験の目的と配慮 2. 実験動物とは 3. 実験動物の歴史 4. 実験動物関連法規の誕生と発展 5. 動物看護師と動物実験 2章2 実験動物の管理学 1. 生体因子の管理学 2. 遺伝的モニタリングの管理学 3. 住居環境因子の管理学 4. 物理化学的因子の管理学 5. 栄養学的管理学 6. 微生物学的管理学（生物学的管理学） 7. 動物実験の基本技術 8. 動物飼育管理上の注意点		4
代表的な実験動物の特性と飼育管理		4

1. マウス 2. ラット 3. シリアン（ゴールデン）ハムスター 4. チャイニーズハムスター 5. スナネズミ 6. モルモット 7. ウサギ 8. サル類 9. その他の動物 2章4 疾患モデル動物 1. 自然発症疾患モデル動物 2. トランスジェニック動物 3. 代表的な実験的疾患モデル動物 4. 研究資源バンク 2章5 動物実験の代替法 1. 代替法とその活用 2. 代替法開発の背景と現在の課題	
野生動物 1. 野生動物の分類と生物多様性 2. 鳥獣害の現状と管理の意義 3. 絶滅危惧種の定義に含まれる動物、原因、保全方法やその意義 4. 外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策 5. 野生動物の救護 6. 野生動物救護の対象と内訳 7. 野生動物の病気と事故 8. 野生動物の救護体制	4
展示動物 1. 展示動物の意義と動物園などの役割 2. 動物園などにおける個体、群管理、行動管理 3. 動物園などの施設管理	3
合計	15
授業単位数	1